

上勝の町

上勝は四国の徳島県にある小さな町です。この町は徳島市の南西約 40 km、剣山地の勝浦川沿いにあります。この町には信号機はたった一つしかなく、コンビニは一つもありませんが、その小さい規模と人里離れた場所にもかかわらず、現代の課題に対するその取り組み方において、世界的に認知されています。

上勝は四国のすべての町の中で最も人口の少ない町で、面積は 109.68 平方キロメートルです。森林がその土地の 88.3% 占め、うち 80% は栽植された森で、主にスギが植えられています。現在の人口はおよそ 1,500 人で、53% が 65 歳を超えています（2020 年現在）。この町は、日本の農村地域の大半がそうであるように、急速に進む高齢化と人口縮小に直面していますが、この町の伝統を生かした斬新なアイデアで対応してきました。その一例が、19 世紀から比較的変わらない姿で保存されてきた棚田での体験活動の導入です。高齢の住民が田植えや茅葺き屋根づくりを教え、知識や技術を若い世代に伝承するとともに、田舎暮らしへの関心を高めています。

多くの高齢者はまた、いどろとして知られる地元の企業を通して、葉っぱや花、つぼみなどを付け合わせの飾り（ツマモノ）として飲食店市場に向けて供給しています。彼らはオンラインで注文を受け付け、季節に合わせた付け合わせを飲食店へ出荷しています。

人口の減少は、予算の制約が大きくなることも意味していました。一つには大型のごみ焼却施設を導入する余裕がなかったこともあり、上勝は 2003 年にゼロ・ウェイスト実現の宣言をしました。地方自治体、非営利団体、住民、その他の人々はリサイクル率 100% に向けて協力しました。彼らは、45 区分という厳密な廃棄物の分別制度や、積極的に廃棄物削減に取り組む店舗のための認定制度などを実施してきました。上勝はまた、インターンシップの提供など、世界中の人々にこの町を訪れ、居住するよう促すプログラムを始めています。